

続 私の自転車

前回 2009 年 5 月の「私の自転車“リカンベントへの想い”」に将来の夢として「リカンベントトライク（三輪車）」への憧れについて触れました。その後は自宅と会社の PC に自転車界のロールスロイスこと英国製リカンベントトライク「WindCheetah」を壁紙にアップ。RCTC 創設 50 周年のパーティ会場に陳列した普通リカンベント「Mistral」歴もかれこれ 14 年目。ドリームカムズトゥルーなんて自分には無縁なものと決め込んでおりました。が、ふとした縁で垂涎の的であったオランダ製リカンベントトライク「OPTIMA」をゲットする幸運な機会に恵まれました。念ずれば通じるってこういうことなのでしょう。思えば 2 年前に四国八十八寺のお遍路も結願、そのご利益だとすれば高野山金剛峰寺へ御礼を兼ねた結願報告に参詣せねばなりません。



foto1



我掌にあるこのリカンベントトライク「オプティマ」は、コックピットのバケットシートのシルエットから、知る人ぞ知る自転車界の F1 マシンと称されてます。自転車乗りにとってペダルを漕ぎ続けることは、自転車操業の謂れ通り、倒れずに前へ進むことでしたが、トライクはペダリングを止め停車しても



foto7

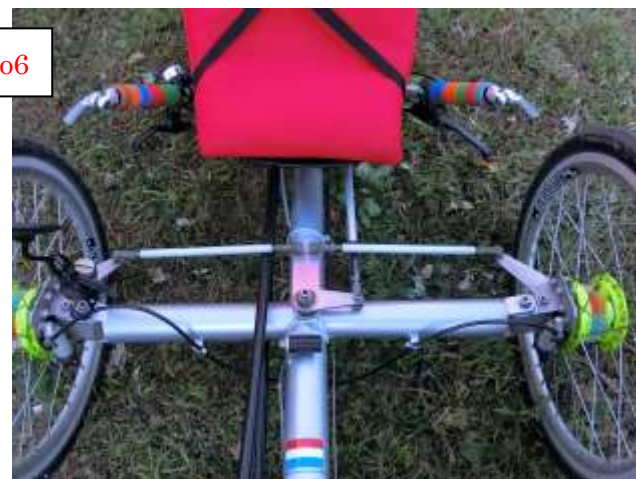


倒れる心配がなく、基本ヘルメット不要。普通リカンベントで最大の恥辱は、ビンディングが外れずコケルこと。「ざまあみやがれ」的な突き刺さる冷やかな視線の集中砲火を浴びる時。思わぬ段差やうたたねをしていると、足がペダルから滑り落ち危険なためビンディングは必需品ですが、咄嗟の足つきでは立漕ぎとは異なり、リカンベントは地面に近い手つきが先。横転の衝撃は小さくともビンディングとはそもそも両刃の剣。楽を取るか、危険回避か、今のところ私は前者を選んでますが、そのうち普通ペダルに換えざるを得なくなるのかな、、、と。その点トライクは低い段差の浅い角度からの突進もへっち

やら。ビンディングペダルに足を固定されたまま、揺りかごの様なバケットシートとまではいかずとも、気持ち的に横臥での安定感や安堵の居心地は、ひょっとしてカンガルーの赤ちゃんってこんな風？！



座席下リンク式ステアリングでハンドル位置は腰真横。両手を下げて太陽光を浴びるミーアキャットのような隙だらけの乗車姿勢に、地上高 25cm から見上げる視界はまるでプラネタリアム。高速コーナリング時の逆 G 感覚やイン側ウイリー走法。まさに自転車にあつて自転車にあらず、乗り比べれば普通リカンベントがまるでママチャリのような懐かしさです。



いいことばかりではありません。皆が聞きたがるリカンベントに共通の弱点は長丁場のヒルクライム。何しろ原産がオランダのような坂の少ない国。いくらミネラル類、アミノ酸を補充しようが、後述する



富士山ロングライドでは毎年両足が痙攣しっ放し。サスペンション付きでもダートでは、大地の起伏のヒダを背中全体で感じながらリバースしそうな高刺激。特にトライクは地上埃が舞う高さなので鼻毛が伸びる心配も。その低さゆえ濡れた路面走行では手元の左右前輪から前に飛ぶ飛沫を自ら顔に被ることに。自転車通行禁止の歩行者天国では降りて押すにも押せず、でも転んで怪我をさせる危険もないので、



foto8



隅っこを小さくなって恐る恐る地味に走行。醍醐味であるはずの絶叫マシンと化すダウンヒルでは、空気抵抗ゼロ、スライディングのイメージそのまま宇宙まで飛んでいきそうな滑空性に、スリリングというよりどこまでも加速する恐怖感が倍増し、もはや 70km/h ぐらいまでが限界。関西では今春漫画家の不幸な死亡事故もありました。揺りかごがそのまま棺桶と化す三途の川と常に背中合わせの緊張感は、M 派にはお勧めでも私はもうパス。逆にエンジブレーキならぬ空気抵抗ブレーキを最大限発揮できるよう、更には普通リカンベントに比べ格段に悪化した視認性への対策も兼ね、リクライニングシートはギリギリまで起こしてます。



foto5



ともあれトライクは、超高齢化社会での普通自動車運転免許返納と深刻化する老老介護時代の要請にマッチする最先端に行く乗り物には違いありません。巢鴨お地蔵さん通りを通るたび耳にする「私もこんながエエわ」同感です。悲惨なアクセル、ブレーキの踏み間違い事故が後を絶たない昨今の交通事情でもありますが、かなり眩しい 60Lux のハイビーム LED ヘッドライトを昼間から点灯、常に自己主張、派手に目立つことだけを最優先に心掛け、黄昏時以後は 7 色電飾フラッグポール点滅。恥ずかしくないかって？やっぱ命でしょう！今もなお運に自己責任の自覚と都会のドライバーの腕を信じ続け、ミストラルからこのオプティマヘアドレナリンもフルスロットル。怨嗟とも聞こえる「こんなの公道走っていい

いのかよお」マイノリティーだからこそ許されるのかもしれない傍若無人でリカンベントなライフです。職質こそ受けたことはありませんけど、恐らく地元王子警察署、飛鳥山地域ではちょっと風変わりなチョイ悪親父で通っているかも。荒川河川敷をこうした特殊車両でツーリングするグループもあるようですが、私は常にロンリーチャップリン。だいたい車止めの柵幅が狭くて通れません。



6台ある自転車はどれもユニークで、まともな自転車は1台もなく家族からも完全アウェー。還暦をはさみここ3年続けて富士山ロングライド120km、60kmにリカンベントでエントリーしてきましたが、来年はこのトライクでのんびりチャレンジしようかなと。セカンド、サードキャリア後を見据えた究極の選択としてこのトライクゲット、決して間違っていないとの確信があります。恐らくはこれから先いよいよ身体が動かなくなるまで長いお付き合いとなるでしょう。春から秋の週末は富士山周辺のゴミ拾い、いまま現役のサラリーマンを続けながら、次の夢、何にしようかなあ、、、と、相も変わらず尽きない想いが募る日々です。

追記

リカンベント：歯医者さんの椅子のように横臥した状態で天空を見上げながら漕ぐ姿勢

トライク：前輪2輪後輪1輪、別名タッドポール（おたまじゃくし）

デルタトライク：前輪1輪後輪2輪、車いすマラソン車輛

時代の最先端の乗り物と言いましたが、トライクの歴史は意外に古くかなり奥深いんです。ちなみに人力移動乗り物での平地世界最高速139.44km/hを記録しているのがリカンベント。

以下はOPTIMAトライクの仕様。ボディシャーシはアルミ合金、全長2m、全幅80cm、座面高25cm **foto1**、前輪20×1.3ドリフト対応ハの字のネガティブギャンバー、b & m昼夜兼用60Luxオートライト、b & m80mm左右大径バックミラー**foto2**、シマノSORA3段クランクギア、SORA前ディレイラー、タイム製ビンディングペダル**foto3**、後輪26×1.3SORA9段スプロケット、シマノDEORE後ディレイラー、BALLISTICリアショックアブソーバー**foto4**、b & m6Vボトルダイナモ、b & m丸型2灯赤色テールランプ、パニアバッグ用リアキャリア、視認性向上の7色電飾付フラッグポール**foto5**、DEOREパーキング兼用フロントドラムブレーキ、リアサイドプルブレーキ、アンダーシートリンク式ステアリング**foto6**、カーボン製バケットシート、自作東洋紡パラレーヴクッション**foto7**、チェーン長2.7倍、チェーンアイドラー&ガイドチューブ etc、、、**foto8**すでに18kg、ここまで書くと軽量化の追求とはかけ離れたまさしく地を這うモンスター。普通リカンベントでは輪行もしましたが、このトライクではあり得ません。

オマケ：池袋東急ハンズにてトライク用の木工材料物色中に鉢合わせたテレビ東京「所さんの学校では教えてくれないそこんトコロ」ロケ班から突然のインタビュー。それまで使用していた手首装着バックミラーが頭痛の種で、下写真の「女子高生よ！お願いだからそれ以上私に近づかないで！」的、東京都迷惑防止条例違反「覗き見」現行犯でお縄を受けそうなかなりヤバイ代物。（注：他車種ではスグレ物）



「その丸材を一体何に使うんですか?」「実は、、、」「そこ取材させてもらってもいいですか?」そんなやり取りから先日 11 月 15 日にオプティマのバックミラー取付工作の様を自宅にてロケ。撮影当日は取り急ぎ車道走行用にとりあえず右側へ取り付けましたが、考えれば歩道も走る訳だしやっぱ左側にも欲しいですね。追加工事が決定した次第。ちなみに番組は 12 月 1 日金曜 21 時にオンエアされました。



2017年12月

昭和54年経営卒 井出義實